

校内研修の取り組みが児童・教師に及ぼす影響について

工藤泰子 工藤郁子 弘前市立千年小学校

要 旨

校内研修の活性化をめざして、校内研修が児童・教師の活動にどのような影響をもたらすことができたのかを、学習指導の実践記録や学力テスト、国語科意識調査の結果から検討した。その結果、校内研修は、教師の学習指導への前向きな活動を促し、子どもたちの学力と学習意識の向上に影響を及ぼすことを示唆する結果を得ることができた。

キーワード 校内研修 国語科学習 意識調査 研修成果 研修意欲

1 はじめに

近年、児童の問題行動が社会問題へと発展し、教育の重要性がさらに唱えられ、教員の質の向上や教員研修の原点である校内研修の重要性がさらに増している。

実際、本校でも児童の問題行動への対処から躰まで、今対処しなければならない問題が多すぎて、研修どころではないと感じている教員が少なくない。また、年度末の学力テストを行っても、なかなか校内研修の成果を感じられないという事実がある。そのため、校内研修への意欲が減退してくるという感想を耳にする。

そこで、本校校内研修に対応した学力テストと意識調査を行いその結果や、授業中・後の児童の変化に教師が1年間の努力の跡を感じ取ることができれば、校内研修への意欲が高まって行くのではないかと考える。

本研究では、その第一歩として、本年度校内研修を検証し、今後の在り方について考える材料としたい。

2 研究の目的

本校校内研修が、児童・教師の活動にどのような影響をもたらすことができたのかを検討する。

3 研究方法

弘前市立千年小学校校内研修会で行われる学習会に参加した教員の様子、1年間継続して行った読解指導と児童の様子、各2回行った学力テストと意識調査の結果の比較を検討した。

3-1 児童の授業前後の調査について

(1) 対象 弘前市立千年小学校 1学年～6学年(404名)

(2) 実施期間 1回目 平成18年6月5日～平成18年6月10日

2回目 平成18年12月11日～平成18年12月15日

(3) 方法

児童の授業前(1回目)後(2回目)の学力テストと意識調査をそれぞれ比較し、意識調査では各項目における差異について検討する。

学力テストは、国語科日本評準テスト光村教科書対応のものをを用いる。

意識調査は、1、2学年は担任による聞き取りにより行い、3～6学年はアンケート用紙に児童が記入する。それぞれの得点差を考察する。項目1～5は国語科の学習に対する関心・意欲・態度に関するもの、項目6、7は物語学習への関心、項目8～12は国語科授業におけるものである。

3-2 授業と児童の学習ノートについて

全12回の授業の中から、授業研究会授業者の研究テーマに基づく1年間を通しての授業と学習後の児童の様子とノートを検討する。

3-3 教師への意識調査

(1) 対象：弘前市立千年小学校1～6学年学級担任12名

(2) 実施期間：

1回目 平成18年10月10日～平成18年10月13日

2回目 平成18年12月11日～平成18年12月15日

(3) 方法

実践途中である10月と実践終了後の12月のそれぞれの得点差を検討する。教師への質問は教師の目から見た児童の様子について問い、項目1～5は国語科の学習に対する関心・意欲・態度に関するもの、項目6、7は物語学習への関心、項目8～12は国語科授業におけるものである。

3-4 児童と教師の意識調査について

12月(2回目)調査の児童と教師の意識の差について比較検討する。

4 結果と考察

4-1 授業と児童の学習ノートについて

4-1-1 校内研修について

千年小学校校内研修は、平成18年度から「正確に理解し深く考える子どもを育成する授業づくり～国語科の学習を通して～」というテーマで研究が行われている。本校校内研修は、子どもたちの表現力を高めよりよいコミュニケーション活動ができることを願って平成17年度から国語科1つにしぼって行われたが、表現の質を高めるためには、よりよい理解が必要であるという結論に達し、平成18年度から前述のテーマに切り替えて研究を行っている。

本テーマの研究は3年次計画とし、「子どもたちが、聞き方・読み方の手だてを身につけるための指導法の工夫」「子どもたちが、体験的に理解し深く考えるための場の工夫」「子どもたちの変容を見取る方法の工夫」「評価の工夫」について行う予定で、平成18年度は、「子どもたちが、聞き方・読み方の手だてを身につけるための指導法の工夫」、特に、児童に身につけさせる物語の読解技術についての研究を中心に行われた。

今年度の研究のために、5月17日に学習会として青森市から講師を招いて、授業とそれに関わる講演を行った。その上で、研究のための公開授業を各学級担任が行った。その授業教材の題材名と指導ポイントを表1に示す。

表1 授業の題材名と指導目標

学習会 平成18年5月17日 授業者 中村 修 先生(青森市立佃小学校) 対象 4年1組 題材名「かげ」 指導目標「3つの視点に沿って場面分けの仕方を理解し、各場面を問答によって決定させ、登場人物の人物像を感じ取りながら主題を読み取らせる。」
下学年ブロックの工夫：共通の指導技術を決めて研究する。 「書くことを通して読み取らせるための工夫」
1学年 題材名「おじさんのかさ」 1、2組 声に出して読む。サイドラインを引く。吹き出しに書く。
2学年 題材名「かさこじぞう」

1組	音読。線引きの条件を絞る。吹き出しに書く。
2組	線引き（読み取るための語句・文の決定）の指標をつかませる。
3学年	題材名「のらねこ」
1組	登場人物の気持ちを想像してワークシートに書く。
2組	登場人物の気持ちを想像して「吹き出し」に書く。
上学年ブロックの工夫：共通の教材で読みのものさしを身につけさせる。	
4学年	題材名「スーホの白い馬」
1組	物語の構造を分析する力を獲得させ読みを深め主題を読み取る。
2組	場面ごとに鍵になる言葉を取り上げ豊かな読みをする。
5学年	題材名「スーホの白い馬」
1、2組	根拠になるところに線引きし思ったことを「書き込む」。
6学年	題材名「スーホの白い馬」
1、2組	中心語からイメージを広げる「意味マップ」の活用。

4-1-2 学習会について

中村修先生の授業は、新美南吉著「かげ」という短い物語を教材に取り上げて行われた。1時間で扱うには4年生ではやや難しいということであったが、中村先生が4年生でも学習できるように工夫された指導内容であった。

物語を、内の目（登場人物の視点）、外の目（語り手の視点）という見方で読み分けることによって物語の構造をとらえながら読みを深める方法を子どもたちに教え、その見方を子どもたちが獲得できるように繰り返し練習しながら読み、最終的には子どもたちに主題をつかませることを目標にして授業が行われた。

授業後のアンケートで以下のような回答が本校教員から寄せられた。

- ・語り手の視点を考えさせる手法、本などでは読んだことがあったのですが、実際の授業を見て「ああ、こういうことか。」と理解することができました。ただ、視点を捉えさせることによって、場面を分けることができるということの他に、どんなメリットがあるのか、また、学年の発達段階によって指導法が変わってくると思うのですが、その点で具体的にどうやっていくのか、さらに、取り扱う資料によってその方法が当てはまらないものもあるのではないかと考えるので、もう少し深く構造読みについて知りたいと思いました。
- ・すばらしい授業です。繰り返しながら定着させていくことの大切さを学ぶことができました。
- ・とても勉強になりました。いろんな勉強の方法がありますが、全体を見るためにはとても良い指導法だと思います。

上記の感想や2年生、4年生担任が中村先生の指導と関わりが深い指導法を用いて指導していることから（表1より）、児童に身につけさせる物語の読解技術についての研究を進めていく上で、中村先生の授業は、良い指針となり、本校教師の意欲の喚起にも役立ったと考える。

4-1-3 「読み取りマップ」を取り入れた読解指導について

4-1-3-1 「読み取りマップ」を取り入れるにあたって

文章の理解を促すための作業化としては、文章構成図やフローチャートなどがあるが、今回は「読み取りマップ」を取り入れた授業を計画した。学習者は、まずトピック語（中心語）を中心に自分のマップを書くことにより既有知識を整理し、自分の知識の空白部分などに着目しながら読みの課題を探ろうとし、課題発見の目安をもつことができる。そして、授業を通して理解したことを書き加えていくことができる。つまり、この「読み取りマップ」には、その時々「文章の理解の深まり」が記録されていくことになる。このよ

うに理解の変容を記録することは、学習者にとっても指導者にとっても重要な資料となるだろう。つまり、学習者にとっては、文章の構造を確認する手段となり、また自分の知識や理解の程度について振り返る資料として、さらに、指導者にとっては、学習者一人一人の理解の程度をとらえ、評価する手だてとなると考えられる。

そこで、トピック語を中心とした「読み取りマップ」を取り入れた授業を展開することにより、子ども達自身に教材の中の言語事項を意識し、正確に理解しようとする姿勢を身に付けさせていきたい。

4-1-3-2 成果と課題

「読み取りマップ」を取り入れた授業は、6月に「スーホの白い馬」、8～9月に「川とノリオ」、11月に「きつねの窓」の教材を通して行った。

①「スーホの白い馬」…スーホと白馬の強いつながりが場面毎に繰り返される作品

段落毎にマップにまとめる授業を組み立てた。マップ作りは初めてだったので全体的にとまどいも見られたが、授業が進むにつれて意欲的に取り組むことができるようになった。読み取ったことを表現することが苦手だった抽出児も、自分なりにまとめることで積極的に授業に関わることができた。最後の段落では、スーホが白馬を「大切」に思う気持ち、そして死んでもスーホの「そばにいたい」という白馬の願いを読み取ることで二人の気持ちが永遠であることに気づくことができているのがわかる。

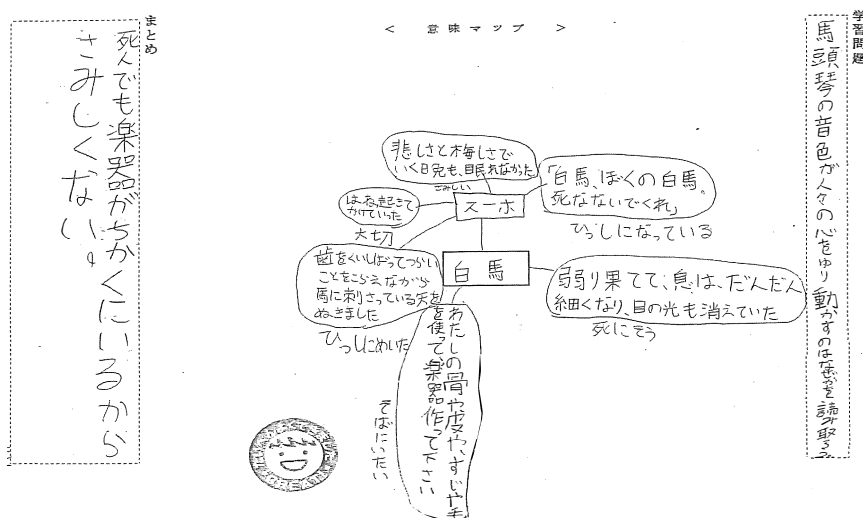


図1 「スーホの白い馬」の「読み取りマップ」

②「川とノリオ」…戦争による両親との別れを経験する幼いノリオとその成長を普遍的に静かに見守る川を対比させながら描かれる作品

1枚のマップに内容を書き足すことに取り組んだ。前回の段落毎のマップでは、授業の多くをマップを書く時間にとられ、各自の読みや話し合いに時間をかけられなかった。そこで、中心語を「川」「ノリオ」に決め、1時間の授業で読み取ったことを書き足せるようにした。自分の考えを振り返り、書き加えたり、修正したりする活動を取り入れることによって思考の変化が見られるマップとなった。

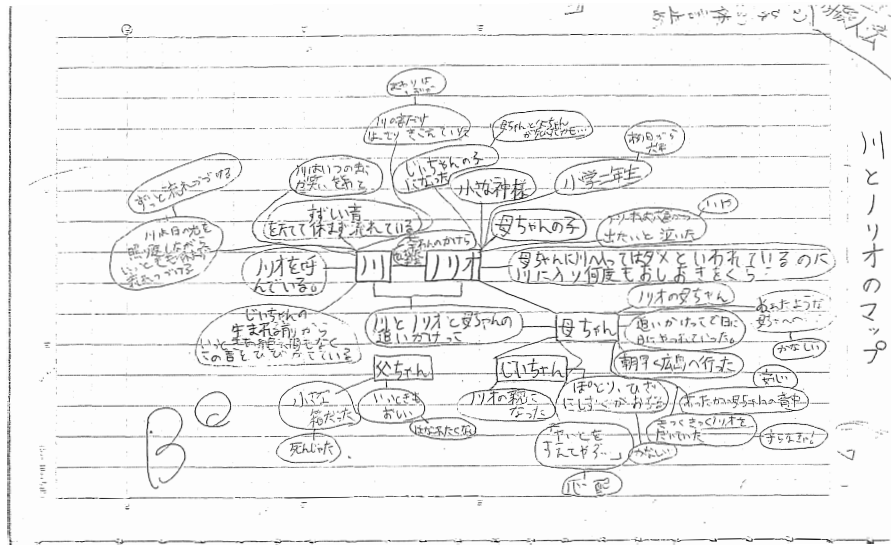


図2 「川とノリオ」の「読み取りマップ」

③「きつねの窓」…不思議な世界で繰り広げられるひとりぼっちどうしの子ぎつねとぼくの交流を描いた作品

単元のまとめの段階で、物語全体をどのように読み取ったのかを自分なりにマッピングさせた。中心語については、児童によって「子ぎつね」「ぼく」にすることが話し合われた。マップを取り上げて三単元目ということもあり、一人一人のまとめ方に個性が見られるようになった。抽出児は、物語全体をしめる「青」という中心語を加える事で、この物語の中で繰り広げられる登場人物の心情をマップに表現している。「ぼく」の「おそろしい」「だまされたふり」「不思議だ」「(きつねの窓が)ほしい」「大切にしたい」といった心情の変化をきちんと読み取ることができた事がわかる。

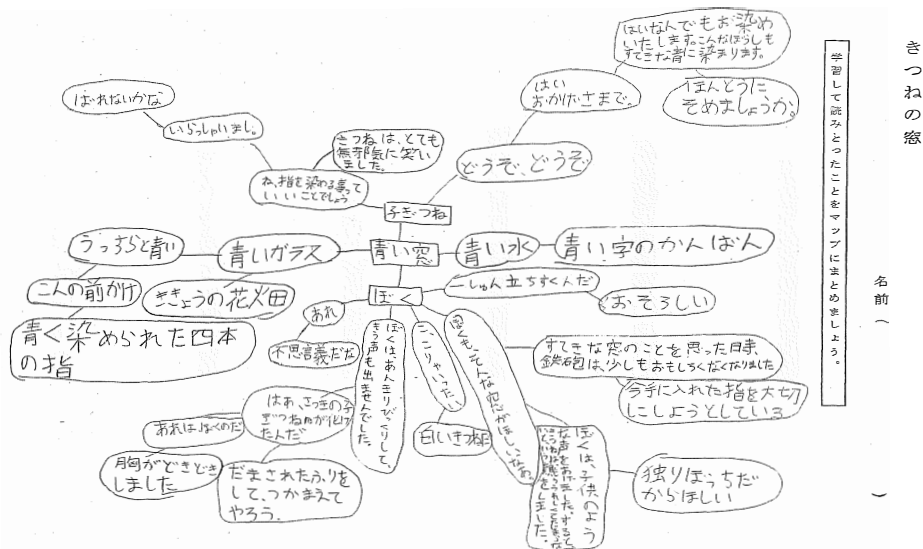


図3 「きつねの窓」の「読み取りマップ」

4-1-3-3 まとめ

マッピングは、学習材である文章から読み取った自分の考えを端的にまとめ、その根拠となる文や単語を確かめていくために、叙述から逸脱することがない。また、学習材を読んで感じたことや考えたことが同じでも、異なった叙述からその思いを導き出せることが

可能であることも相互に関わることで理解できる。さらに、子ども自身が「どのように読んでいけばいいのか」「このように読むこともできるのか」等、自己評価をしながら学習を進めていくことができた。よって、読みの過程においてマップを活用することは、文章を正しく理解するための手だてとなると考える。また、読みを広がりのある豊かなものへと深めていくことにも効果的であるといえる。

評価面では、授業中の発言や感想文では評価しきれなかった子どもの読みの変容や深まりを見取ることにおいて有効であった。抽出児のように自分の考えを文章に表現することに苦手意識を持っている子どもも、単語や短い文章をつなげていくマッピングに自分の読みを表現することができた。今後は、文章の理解度に関して、作成された一人一人のマップを具体的にどう評価していくのか、評価の観点をさらに明確にしていく必要がある。

4-1-3-4 「読み取りマップ」を取り入れた読解指導への考察

「読み取りマップ」を取り入れた物語の学習指導は1年間を通して行われた。その結果、上記の利点の他、物語の構成によって用い方に工夫が必要であるということも指導者は気付くことができた。また、抽出児童の変化はマップを通して教師にその変容を伝えただけではなく、意識調査(項目12)でも「マップを取り入れた学習がわかりやすい」と回答している。これは、単に教師が児童に合った指導法を取り入れたと言うだけでなく、1年間を通して継続的に行ったことが大きく影響しているのではないかと考える。

4-2 児童の学力テストと意識調査の前後期比較について

4-2-1 学力テストについて

図4は、前期(4~5月頃に行われる問題を6月に実施)と後期(1~3月頃に行われる問題を12月に実施)に行った学力テスト(日本評準テスト 光村教科書対応)の結果である。左は前期に行ったテスト(平均約75点)、中は後期に行ったが前期と同じテスト(平均約88点)。右は後期に行い前期と違うテスト(平均約79点)の結果である。どの学年も、前期と同様の問題だが後期に行ったテストの結果が前期に行ったときより高くなっている。また、違うテストで後期に行ったテストは平均が前期のテストの平均とほぼ同程度である。この様な結果から、児童の学力は全校的に上昇傾向にあるといえる。

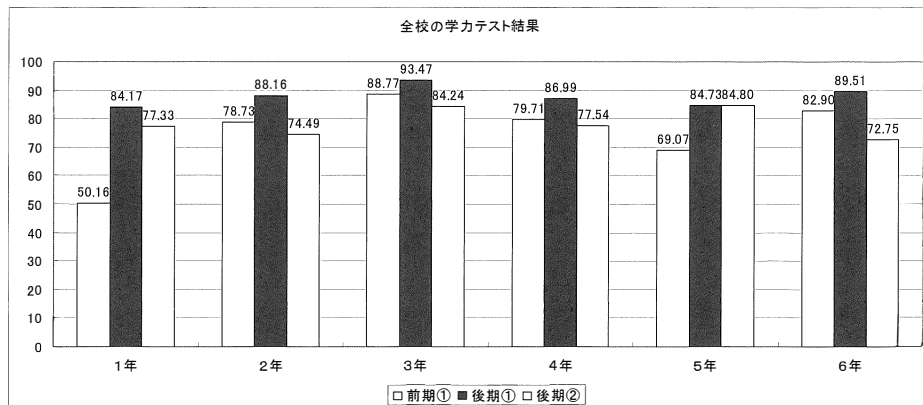


図4 前期と後期に行った1~6年生の学力テスト(物語)の結果

4-2-2 国語科意識調査 項目1~項目8、項目10、11 について

1、2年生と3~6年生は調査方法が異なるので、区別して示す。

図5は1、2年生の国語科意識調査結果の前後期比較の様子である。各学年での国語科学習が進んでいる後期(12月)の時点で、前期(6月)より高くなっている項目は、3(国語科学習を自分からしますか)と11(読み聞かせが好きですか)の2項目に止まった。低学年児童は、学習に対して3年生以上より大変好意的であることは後期も変わらな

いが、国語科学習が進むにつれて学習の厳しさに気付き諸手を挙げて大好きとはいけなくなるのではないかと考える。教師は、児童のこのような変化を意識して国語科学習への興味付けを大切にしていけることも重要だと考える。

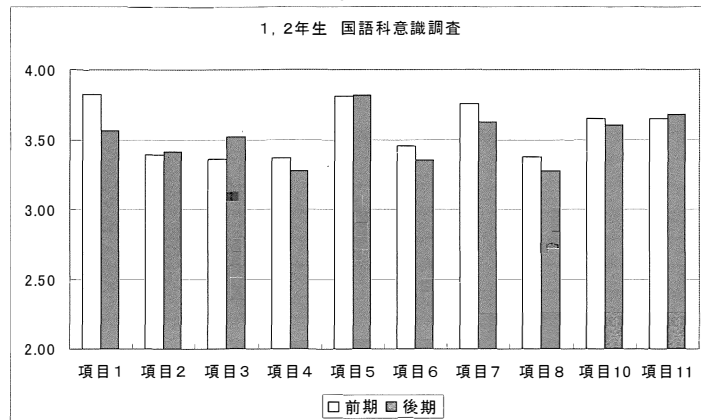


図5 1、2年生の国語科意識調査結果の前後期比較の結果

図6は3～6年生の国語科意識調査結果の前後期比較の様子である。各学年での国語科学習が進んでいる後期（12月）の時点で、前期（6月）より全体的に意識が上がっているといえる。校内研修がテーマとしている物語の読解に関わる項目6（登場人物の気持ちを考えるのが好きか）も後期の方が高くなっているため、校内研修を意識した教師の働きかけが児童の意識の向上にかかわっている可能性があるといえる。しかし、低学年に比べると各項目で低く、学年が上がるとともに国語科学習への意識が低くなっているため、児童に国語を学ぶおもしろさや尊さを伝える努力をしていきたい。

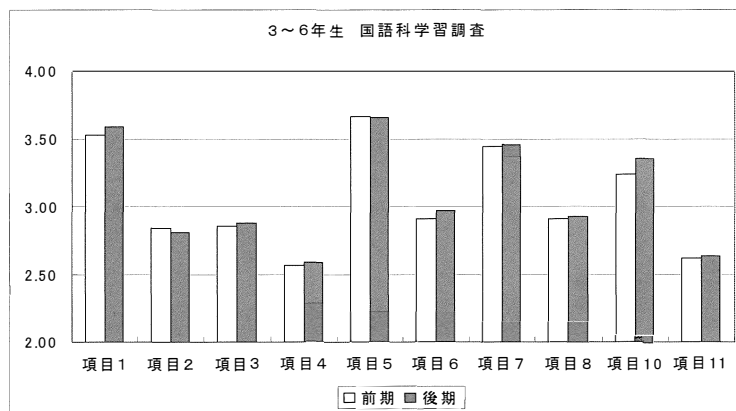


図6 3～6年生の国語科意識調査結果の前後期比較の結果

4-2-3 国語科意識調査 項目9、12 について

① 2年生について

表2は、2年生の物語を読むときに気をつけることの自由記述の前後期比較の結果である。前後期合わせて14種類の回答があり、そのうち気持ちの読み取りに関する記述では、前期は、気持ち、様子、会話、順序の4種類であった。後期は、内容、気持ち、様子、会話、言葉の句切り、お話（地）の文の6種類でやや数を増やし、さらに、2年生担任が読解のための視点としてこだわった「言葉の句切り、お話（地）の文」という回答があり、物語の読解学習の影響がうかがえる。

表3は、2年生が国語科学習でよくわかると思うときについての自由記述の前後期比較の結果である。後期には、前期になかった「登場人物の気持ちがわかったとき」という記述があり、児童が物語の登場人物の気持ちを考えることに前向きであったことがうかがえる。

表2 2年生が物語を読むときに気をつけること

前 期	後 期
、や。	、や。
字 漢字	漢字
速さ	
声の大きさ	
	間違えないように
	発音
段落	
	内容
気持ち	気持ち
様子	様子
会話	会話
順序	
	言葉の句切り
	お話(地)の文

表3 国語科の学習でよくわかるとき

前 期	後 期
漢字	漢字
好きな内容	
楽しい学習	
友だちのヒント	友だちのヒント
先生のヒント	先生のヒント
	お家の人のヒント
	文や言葉の意味がわかったとき
	登場人物の気持ちがわかったとき
	答がわかったとき
	わからなかったことがわかったとき

② 3年生について

図7は、3年生の物語を読むときに気をつけることの自由記述の前後期比較の結果である。前後期合わせて14種類の回答があり、そのうち気持ちの読み取りに関する記述は、前期は4種類、後期は10種類と増えた。そして、「気持ち」を気をつけたと考えている子が前期の3倍ほどに増加し、増えた記述内容も3年生担任が読解のための視点としてこだわった言葉「行動、様子、会話、地の文」が出ている。

図8は、3年生が国語科学習でよくわかるときの学習内容の自由記述の前後期比較の結果である。後期には、前期になかった「ワークシート記入」という記述があり、ここにも3年生の研究テーマに関わる記述がわずかだが挙げられている。

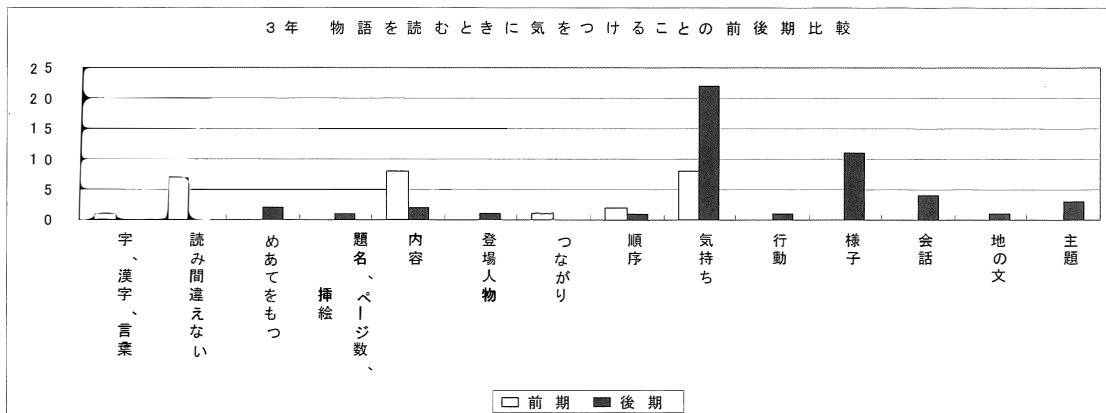


図7 3年生の物語を読むときに気をつけることの前後期比較の結果

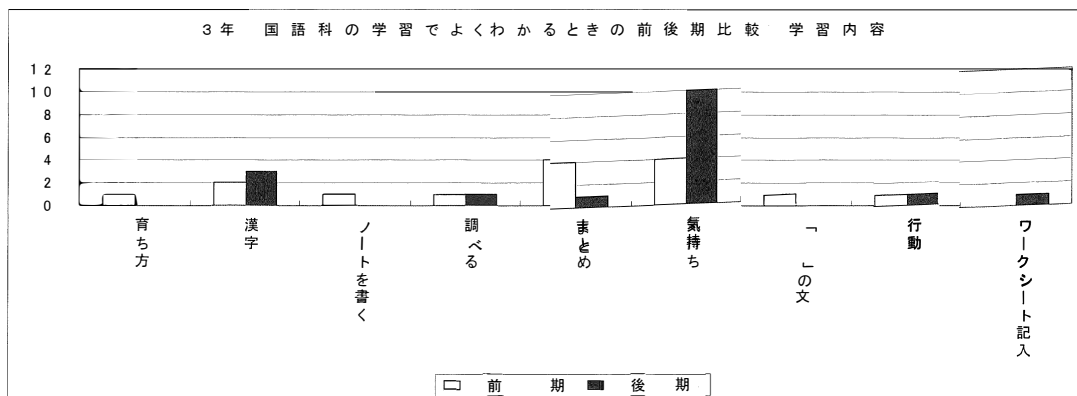


図8 3年生が国語科学習でよくわかるときの学習内容の前後期比較の結果

③ 4年生について

図9は、4年生の物語を読むときに気をつけることの自由記述の前後期比較の結果である。前後期合わせて14種類の回答があり、そのうち気持ちの読み取りに関する記述は、前期6種類で、後期は9種類と増えた。そして、「気持ち」を気をつけたと考えている子が前期の3倍ほどに増加した。

図10は、4年生が国語科学習でよくわかるときの学習内容の自由記述の前後期比較の結果である。後期には、前期になかった「主題、場面・クライマックス、討論、言葉」という4年生担任が読解のための視点として用いた言葉が多数挙げられている。

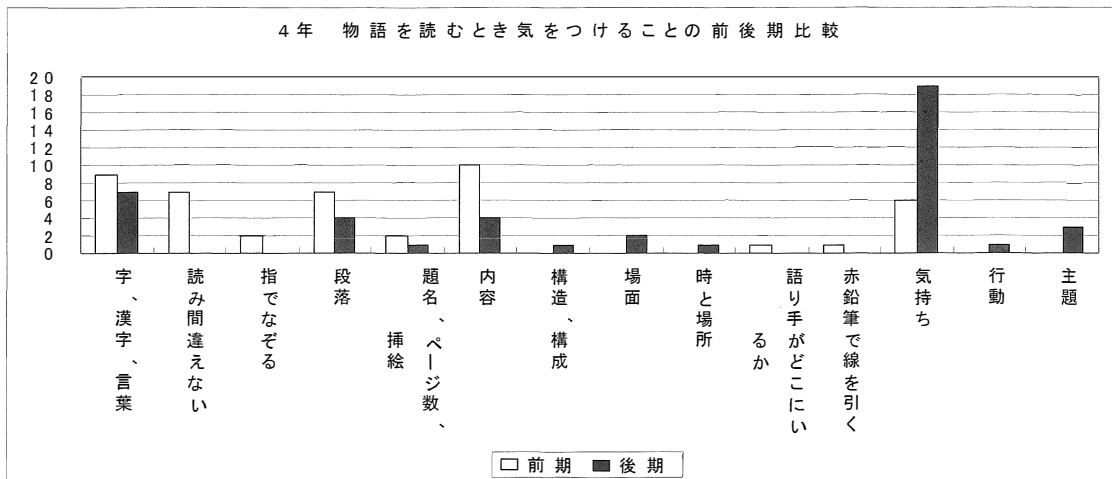


図9 4年生の物語を読むときに気をつけることの前後期比較

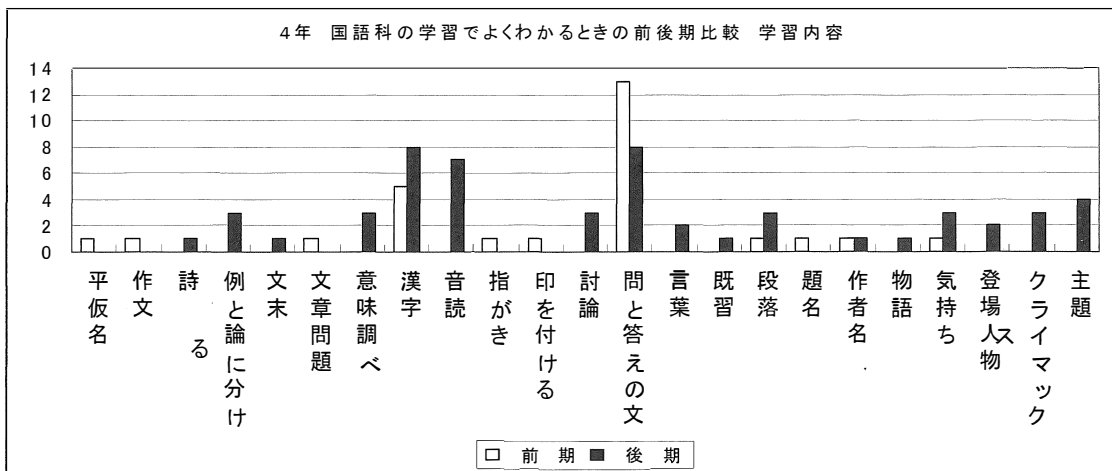


図10 4年生が国語科学習でよくわかるときの学習内容の前後期比較の結果

④ 5年生について

図11は、5年生の物語を読むときに気をつけることの自由記述の前後期比較の結果である。前後期合わせて12種類の回答があり、そのうち気持ちの読み取りに関する記述は、前期は5種類で、後期は8種類と増えた。そして、「気持ち」を気をつけたと考えている子が前期の1.5倍ほどに増加した。

図12は、5年生が国語科学習でよくわかるときの学習内容の自由記述の前後期比較の結果である。後期は、「登場人物、題名」とテーマにかかわる記述が挙げられている。

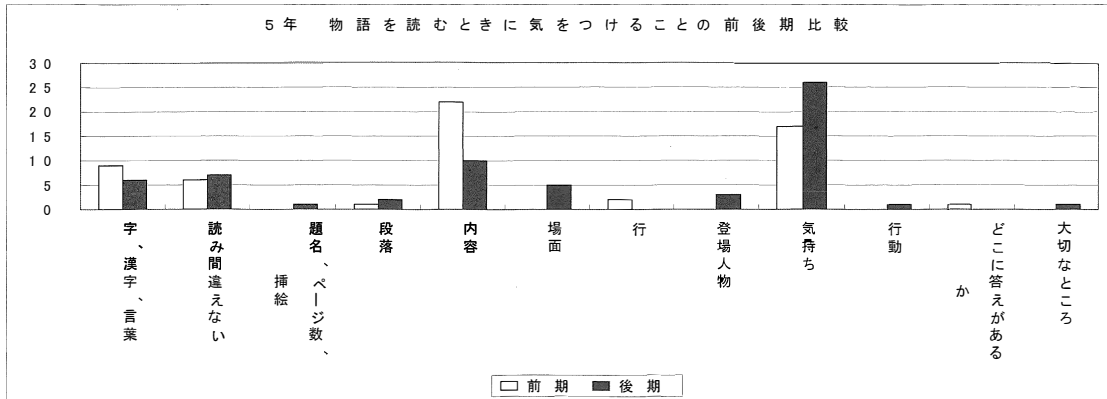


図 1 1 5年生の物語を読むときに気をつけることの前後期比較

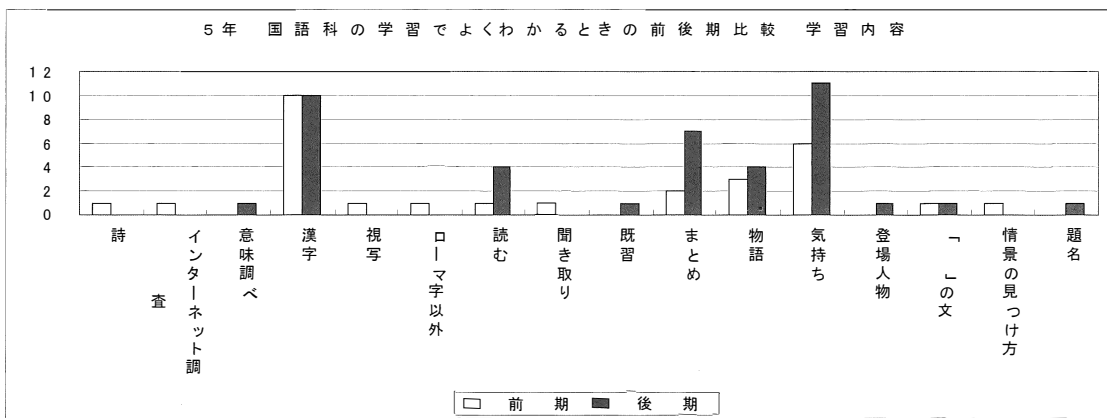


図 1 2 5年生が国語科学習でよくわかるときの学習内容の前後期比較

⑤ 6年生について

図 1 3 は、6年生の物語を読むときに気をつけることの自由記述の前後期比較の結果である。前後期合わせて13種類の回答があり、そのうち気持ちの読み取りに関する記述は、前期は4種類で、後期は10種類と2倍ほどに増え、「気持ち」を気をつけたと考えている子が前期の1.5倍ほどに増加した。

図 1 4 は、6年生が国語科学習でよくわかるときの学習内容の自由記述の前後期比較の結果である。後期には、前期になかった「マップ、線引き、行動」という6年生の研究テーマに関わる記述が挙げられている。

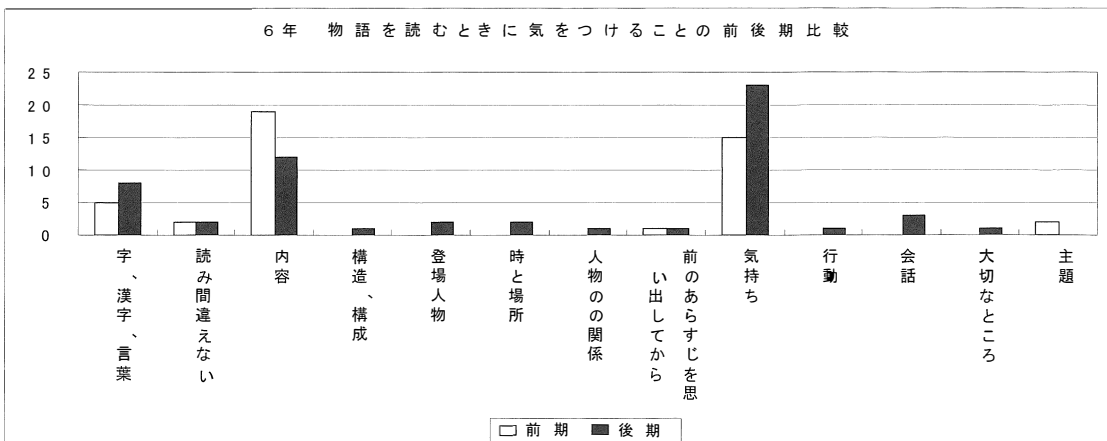


図 1 3 6年生の物語を読むときに気をつけることの前後期比較の結果

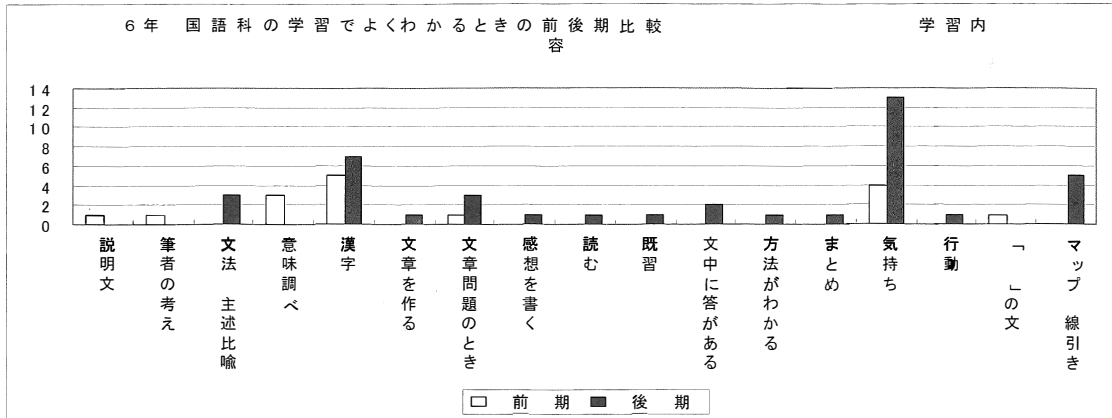


図 1 4 6年生が国語科学習でよくわかるときの学習内容の前後期比較の結果

この様に、2～6年生の全ての学年において物語を読むときに気をつけることの自由記述では、授業者が児童に考えてほしいと願った登場人物の気持ちの読み取りに関わる記述が前期より後期の方が増え、そして、「気持ち」を気をつけたと考えている子が前期より後期の方が増えた。また、後期の方が登場人物の気持ちや主題に迫る回答が多く出される傾向にあった。さらに、国語科学習でよくわかるときの学習内容の自由記述でも、授業実践がなされた後期において、それぞれの読み取りの視点に関わる記述が複数挙げられており、校内研修が児童の学習意識に影響を与えていると言える。

4-2-4 児童と教師の意識調査の比較について

図 1 5 は、12月の児童の国語科意識と教師の目から見た子どもたちの国語科に対する様子の差である。児童は設問に対してより肯定的にとらえているが教師の目から見るとそれほどでもないといえるのは、項目1、3、4、5、10である。児童の学力の伸長を大いに期待する立場である教師の目が児童より厳しくなるのは当然のことではあるが、児童と教師との差を少しでも減らす努力がさらに必要になってくると考える。

一方、教師の評価が児童と同程度もしくは高い傾向にある項目で注目に値するのは「読み聞かせ」の項目である。児童は、教師が思っているほど「読み聞かせ」を好きではないということが言えるので、「読み聞かせ」の場の与え方を工夫する必要がある。

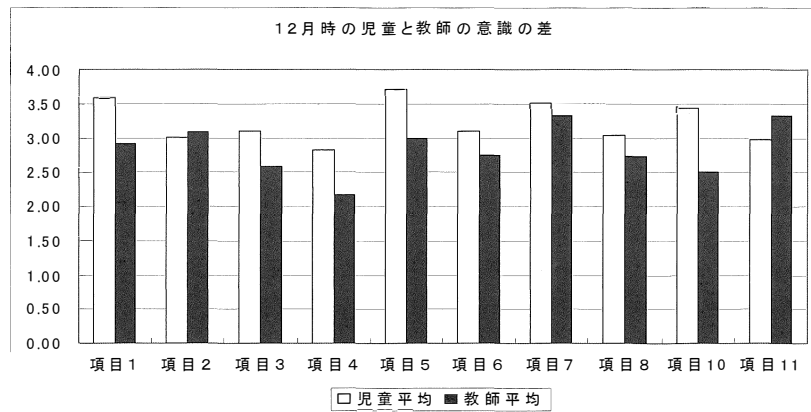


図 1 5 12月の児童の国語科意識と教師の目から見た子どもたちの様子の結果の差

5 まとめ

本研究は、本校校内研修が児童・教師の活動にどのような影響をもたらすことができたのかを検討するために、学習会、「読み取りマップ」を取り入れた読解指導と児童のノー

ト、学力テストと意識調査について考察した。

講師を招いての学習会は、本校教師が研究テーマを決める上で良い指針となり、研修意欲の喚起にも役立ったと考える。「読み取りマップ」を取り入れた読解指導と児童のノートの検討では、児童の読みの変容と評価に対する良い影響だけでなく、工夫を重ねながら「読み取りマップ」を扱うことで研究の深まりを教師が実感していた。2回の学力テストと国語科意識調査の結果からは、わずかではあるが教師の取り組みが児童の読解力に良い影響を与えてきたとすることができる。

6 おわりに

今回の研究では、各項目間の関係や学年間の意識変化の関係などの検討が十分とは言えないので、今後の研究の課題としたい。また、各指導者の意欲や研究の深さの違いから生じる校内研修としての課題にも気付かされる。

本研究で得た成果を自信とし、今回明らかになった課題に向けて校内研修をさらに励みたい。

最後になりましたが、本研究を行うにあたり、学力テストや国語科学習意識調査などを快く協力して下さった弘前市立千年小学校職員の皆様、集計結果の統計処理分析のご指導下さった実践センター田名場先生をはじめとする諸先生方には大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

資料

国語科学習アンケート（上学年用）	年 組	番 名	前
下の問題で、あてはまると思う番号に○をつけましょう。			
1. あなたは、国語の学習を大切だと思えますか。			
① 思わない	② あまり思わない	③ わりと思う	④ 思う
2. あなたは、国語の授業中、手をあげて発表しようとしていますか。			
① しない	② あまりしない	③ ときどきする	④ する
3. あなたは、家で国語の学習を自分からしますか。			
① しない	② あまりしない	③ 時々する	④ 毎日する
4. あなたは、家で国語の学習をするとき、やり方がわからなくて困ることはありますか。			
① よくある	② ときどきある	③ あまりない	④ ない
5. あなたは、国語の学習ができるようになりたいですか。			
① 思わない	② あまり思わない	③ わりと思う	④ 思う
6. あなたは、物語の登場人物の気持ちを考えるのが好きですか。			
① 好きでない	② あまり好きでない	③ わりと好き	④ 好き
7. あなたは、読書が好きですか。			
① 好きでない	② あまり好きでない	③ わりと好き	④ 好き
8. あなたは、授業中、学習のめあてをもって取り組んでいますか。			
①ほとんど取り組んでない	②あまり取り組んでない	③だいたい取り組んでいる	④取り組んでいる
9. あなたは物語を読むとき、何に気をつけて読みますか。 ()			
10. あなたは、先生や友だちの話をしっかりと聞いていますか。			
① 聞いていない	② あまり聞いていない	③ わりと聞いている	④ 聞いている
11. あなたは、読み聞かせを聞くのが好きですか。			
① 好きでない	② あまり好きでない	③ わりと好き	④ 好き
12. あなたが、国語の学習で、よくわかると思うときはどんなときですか。 ()			